

## 学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時：平成25年1月22日(火) 11:00～11:30

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

### 発 表 事 項

- 1.平成24年度補正予算(第1号)について
- 2.経済産業省「産学連携イノベーション促進事業(復興枠)」に採択
- 3.高性能な有機トランジスタ用電極を、印刷と低温処理で作製に成功
- 4.山形大学工学部公開セミナー『次世代医療を担うバイオ化学』開催
- 5.平成24年度 山形大学 造形芸術コース 卒業・修了制作展
- 6.<東日本大震災被災地支援>石巻市立小学校等にノートパソコンを寄贈

### お 知 ら せ

- 1.理学部の柴田晋平教授が代表を務めるNPO法人小さな天文学者の会が、  
庄内銀行ふるさと創造基金「地域貢献大賞」を受賞
- 2.南東北三大学連携シンポジウム  
「安全と信頼で支えられる地域社会の構築を目指して」開催

(参 考)

次回の学長定例記者会見(予定)

日 時:平成25年2月5日(火) 11:00～11:30

場 所:事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

平成25年1月22日  
山形大学

## 平成24年度補正予算（第1号）について

### 事業名

#### ・設備関係

新・里山生態系管理システムの構築プロジェクトを推進するために必要な設備  
利用しながら保全する生物多様性  
総合スピン科学の創成プロジェクトを推進するために必要な設備  
地域支援を含めた臨床検査トータルサポートシステム  
次世代型重粒子線装置の開発に向けた革新的技術開発  
広域医療ネットワークを活用した患者情報管理の基盤技術開発  
総合的医科生物学人材育成を目指すオミックス教育実習システムの整備  
次世代エレクトロニクス産業に向けた高度人材育成を目的とした有機デバイス作製・評価システムの整備

予算額計 1,681百万円

#### ・施設整備

【小白川団地】総合研究棟改修（文学系）  
【米沢団地】ライフライン再生（暖房設備等）  
【飯田団地】ライフライン再生（給排水設備等）  
【飯田団地】がん研究センター  
【米沢団地】総合研究棟（グリーンマテリアル加工研究所）  
【米沢団地】旧米沢高等工業学校本館

#### ・給与改定臨時特例法に基づく国家公務員の給与削減と同等の給与削減相当額

811百万円

（お問い合わせ）  
総務部広報室  
電話：023-628-4008

平成25年1月22日  
山形大学

経済産業省「産学連携イノベーション促進事業（復興枠）」に採択

経済産業省「産学連携イノベーション促進事業（復興枠）」に山形大学が採択されました（応募29件中 採択7件）。

## 1. 事業テーマ

有機デバイス産学コンソーシアム形成事業

## 2. 事業概要

有機エレクトロニクスは新しい産業創生の原動力として、持続的に発展可能な社会に欠かせない技術です。その発展には、**産業界と直結したオープン・イノベーション**の場が必須であり、基礎から応用まで傑出した研究実績のある山形大学に、戦略的に研究開発テーマを創出する「有機デバイス産学コンソーシアム」、そのテーマの実現に向け開発研究を行う「有機デバイス共同研究コンソーシアム」を設置します。このコンソーシアムの目的は、継続的にイノベーションを生み出す。大学と複数企業の研究開発拠点体制を作り上げることであり、そのための施策として、産学連携スキーム、大学制度の改革、人材育成システムの構築などを実行し、自律的で自走可能な拠点の構築を目指します。ひいては**東北地方の特定被災地域等の復興**に資するイノベーション拠点をつくります。

## 3. 目標

日本が発展させてきた有機EL技術をコアとして、有機エレクトロニクス全般で国際的な優位性をこれからも確保するため、山形大学の世界最高水準の「有機エレクトロニクス国際研究拠点」と、実用化・実証研究への橋渡し施設「有機エレクトロニクスイノベーションセンター」をプラットフォームとして、「**有機デバイス産学コンソーシアム**」を立ち上げます。これは産学連携活動を円滑かつ持続的に実施し事業化に繋げるためのシステムを目指すものであり、本格的なオープン・イノベーション環境を整備します。ここから東北震災復興、特に**特定被災地区の復興**を促進し、日本再生につながるイノベーションを実現します。

本構想で目指すものは、産業界が積極的に関与するシステム(場)を構築です。研究テーマの設定段階から、有機材料(化学メーカー)、部材、デバイス(有機EL照明パネルメーカーなど)やプロセス・装置メーカーなど領域を越えた幅広い産学関係者が意見交換を実施し、事業化を目指した新規共同テーマの創出・提案をすることができるシステムの構築を目指します。さらに本コンソーシアムで提案された研究テーマについて、迅速に開発研究を開始するために、個々のテーマ毎に「**有機デバイス産学共同研究コンソーシアム**」を組み、垂直連携の集中研方式での開発を行うことができるように、**大学の体制を整備**します。このために研究管理体制の充実(URA等)、知財管理体制や資金運用管理体制、参画者へのインセンティブ等の制度改革を行います。

## 4. 事業実施期間

産学コンソーシアム立ち上げ事業

交付決定日～平成25年3月31日

産学コンソーシアム運営事業

交付決定日～平成27年3月31日

事業の詳細は下記ページを御参照ください。

<http://www.meti.go.jp/information/data/c120810cj.html>

(お問い合わせ)

山形大学有機エレクトロニクス研究センター

研究プロジェクト支援室電話：0238-26-3590

平成25年1月22日  
山形大学

## 高性能な有機トランジスタ用電極を、印刷と低温処理で作製に成功 —— 印刷でつくる電気電子デバイスの実用化に大きく貢献 ——

山形大学有機エレクトロニクス研究センターの時任静士卓越研究教授のグループは株式会社ダイセルと共同で、印刷法で有機トランジスタの電極を作成する際に、従来140度は最低必要だった温度を、100度の、常識では考えられない低温で作製することに成功しました。これにより萌芽期にあるプリントドエレクトロニクス(印刷でつくる電気電子デバイス)産業の成長が加速され、実用化や製品の市場導入がはじまることが期待できます。

### 1. 背景と意義

これまで、印刷法で有機トランジスタを作製する際、電極については印刷後に140度などの高い温度での焼成が必要で、とくにプラスチック基板などを用いる場合にはこの温度が大きな壁になっていました。今回、印刷後、100度という低温での焼成で形成できる電極形成技術の開発に世界で初めて成功しました。この低温化は常識を大きく超えるもので、耐熱性の低い汎用の廉価なプラスチック基板上にも形成が可能になり、印刷で製造しようとする様々なエレクトロニクスデバイスの実現に大きく貢献できるものです。

### 2. 経緯と開発の概要

この技術は時任卓越招聘教授らのグループと山形大学理学部栗原正人教授との共同の銀ナノ粒子インクの応用に関わる研究に端を発するものです(関連特許出願済)。今回、低温での焼成が可能のように、銀ナノ粒子インクをインクジェット装置で安定に吐出できるように改良し、基板の表面状態や吐出条件等を最適化することで、約50ミクロン幅の均一な銀電極線を形成することに成功しました。吐出後の室温乾燥でも $\sim 800 \mu \Omega \text{ cm}$ の抵抗が得られ、わずか100℃の焼成で、 $8 \mu \Omega \text{ cm}$ の低抵抗な特性が実現できました。また、この銀電極形成法を用いて試作したチャンネル長が $80 \mu \text{ m}$ の有機トランジスタで良好な特性を実証しました。

### 3. 今後の予定

インクジェット法のさらなる改良とともに、この技術を応用して、有機トランジスタを用いたフレキシブルディスプレイをはじめフレキシブルRFID、フレキシブル生体センサなどの開発を進めてゆきます。

- ・銀ナノ粒子インクは株式会社ダイセルが担当しました。
- ・印刷でつくる電気電子デバイスの有力な展示会である「プリントブル エレクトロニクス 2013」(2013.1.30-2.1, 東京ビッグサイト)にて、関連デバイスを出展の予定です。
- ・この研究はJST地域卓越研究者戦略的結集プログラム「先端有機エレクトロニクス国際研究拠点形成」事業の支援も受けて行われました。

(お問い合わせ)

山形大学有機エレクトロニクス研究センター

研究プロジェクト支援室電話：0238-26-3590

## 参考資料

### (1) これまでのインクジェット法による有機トランジスタ電極形成の課題

この方法は、微細な孔のノズルを持つインクジェットヘッドから、目的成分からなる少量（ピコリットル程度）のインク液滴を基板表面上に吐出させて、その後、乾燥および焼成処理して目的成分の薄膜を形成するもので、比較的低温、且つ微細線幅で形成することができる方法として知られています。（図1にこの方法の概念を示します。）しかし、これまでのトランジスタのソース電極やドレイン電極の形成では、インクを基板への吐出後、140℃程度以上の焼成処理を施さないと十分な低抵抗とならず、耐熱性の低い、汎用のプラスチックフィルムには形成できない課題がありました。

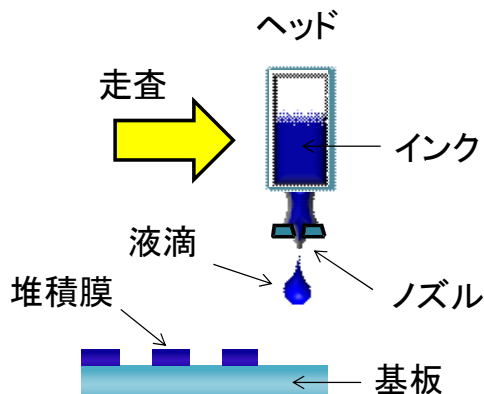


図1 インクジェット法の概念図

### (2) 今回の工夫点

#### 1) 新しい銀ナノ粒子インクの開発

有機薄膜トランジスタのソース電極やドレイン電極の形成では、銀のナノメートルサイズの粒子を有機材料で覆い、これら粒子を溶剤に溶かしたものをインクとして用いるのが一般的です。今回、微細なノズルから吐出できる、吐出後もインクの乾燥が適切な速度で起こる、また室温の乾燥後、100℃程度の低温でも十分低抵抗な銀電極が得られるように、インクの粘性などの特性の最適化を行いました。

#### 2) 吐出方法の開発

上記の銀ナノ粒子インクを適量、且つ安定に吐出させるようにインクジェット装置および吐出方法を改良するとともに、滴下する基板表面状態を改善することにより、約50μm幅の均一な銀電極線を再現性良く形成することに成功しました。吐出後の室温乾燥でも820μΩcmの低抵抗な特性が実現できています。これを100℃で焼成すると通常の電極として十分な8μΩcm抵抗となることがわかりました（図2）

この焼成温度は、耐熱性の低い汎用の廉価なプラスチック基板（PETなど）にも形成できるので、印刷法で電子回路などのデバイスをつくるプリンタブルエレクトロニクスの実用化に大きく貢献するものと考えています。

インクジェット法によるナノ粒子堆積、乾燥、および焼成の原子・分子過程の詳細はまだ不明ですが、今回の成果を基にその解明を行い、さらなるインクジェット法の改良を進めてゆく予定です。

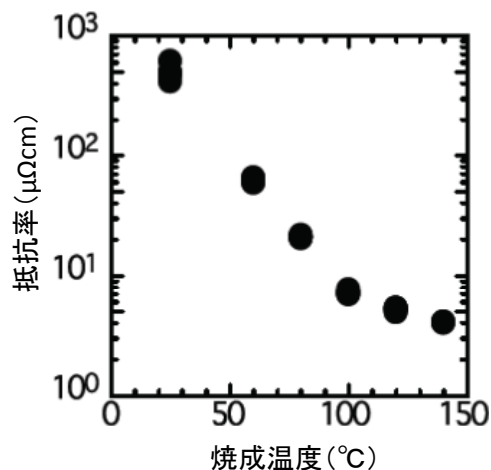


図2 焼成温度と抵抗率の関係

### (3) 有機薄膜トランジスタへの応用

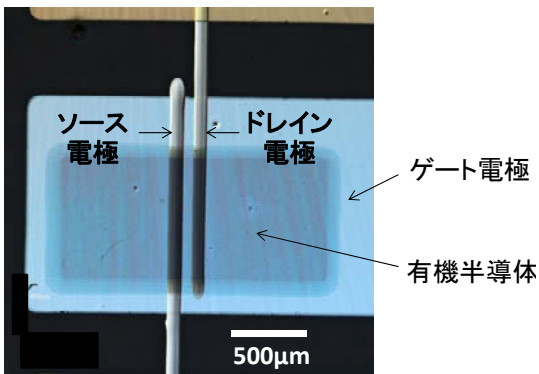


図 3 (a) 試作した有機トランジスタの顕微鏡写真(有機半導体にはペンタセン、絶縁膜にはPVP、ゲート電極にはAlを用いた)

図 3 に今回の電極形成方法を活用して試作した有機薄膜トランジスタの平面顕微鏡写真[(a)]と、その動作特性[(b)(c)]を示します。ソース・ドレイン電極の間隔(チャンネル長)は $\sim 80 \mu\text{m}$ で電荷移動度 $\sim 0.1 \text{ cm}^2/\text{Vs}$ 、ON/OFF比 $\sim 10^5$ の良好な値が得られました。

### (4) 専門用語の説明

#### ○ 焼成

通常の銀ナノ粒子インクをインクジェット法で室温で基板に滴下しただけではナノ粒子同士が疎の薄膜となり低抵抗にはならない。ここで言う焼成とは、滴下したナノ粒子膜を高温にもたらし、ナノ粒子同士の融着を進行させて低抵抗化することを示す。

#### ○ PET

ポリエチレンテレフタレート(Polyethylene terephthalate)。飲料容器(ペットボトル)やフィルム・磁気テープの機材、衣料用繊維などに広く用いられており、プラスチック基板用材料としては安価な材料である。非晶部分が流動性をもち軟化する温度(ガラス転移温度)が約 $80^\circ\text{C}$ 、結晶部分も流動する温度(融点)が約 $264^\circ\text{C}$ と低いことため、高温でのプロセスに適さないことが問題となる。

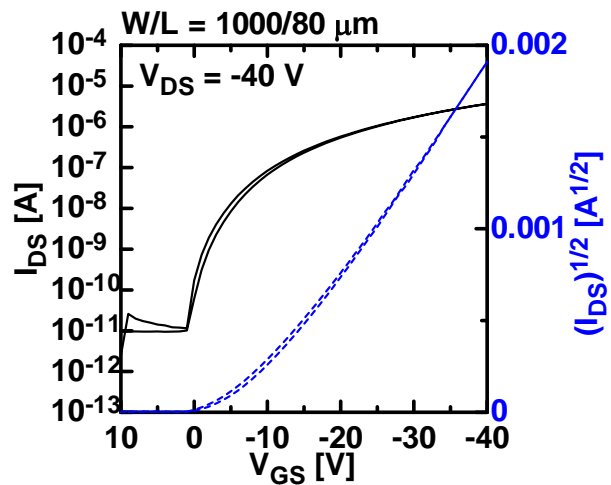


図 3 (b) 試作した有機トランジスタの特性(I) ~ドレイン電流とゲート電圧の関係~

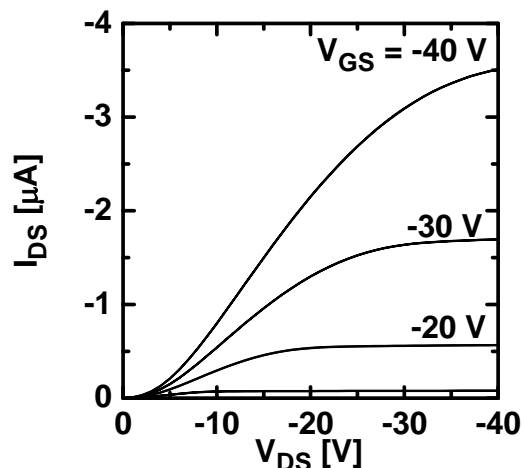


図 3 (c) 試作した有機トランジスタの特性(II) ~ドレイン電流とドレイン電圧の関係~

## ○チャンネル長

トランジスタの性能を決める重要なパラメータで、種々の定義があるが、大雑把にはソース・ドレイン電極間距離と考えてよい。電極より注入された電荷がゲート電圧下で走行する距離で、これが短いほど高速動作するトランジスタとなる。

## ○PVP

Poly-(4)vinyl phenol (PVP)は有機トランジスタ用絶縁膜として広く使われている材料であり、高温によって硬化し、平坦な膜を形成する。架橋剤を添加することにより耐薬品性が向上し、様々な溶剤を用いることが可能となる。

## ○フレキシブル有機RFIDタグ

個別情報をシステム管理するRFID (Radio Frequency Identification)タグの製造コストは商品の販売価格に含まれるため、低価格商品にまでRFIDタグを普及させるためには、タグ自体の製造コストの大幅な低減が求められる。このためフレキシブルな有機材料を用い、低温・高速製造を実現して低価格化を狙っている。

平成25年 1月22日  
山形大学

## 山形大学工学部公開セミナー 「次世代医療を担うバイオ化学」開催

山形大学での最新の医療製品開発のお話と基礎から応用までの生殖医療分野について、工学の立場から分かりやすく解説します。

**主催** YU-COE（山形大学高度生殖テクノロジーイノベーション拠点）  
工学部バイオ化学工学科  
**開催日時** 平成25年1月26日（土）13:00～16:00（受付開始 12:30）  
**会場** 山形大学工学部 中示範B教室（米沢市城南4-3-16）  
**対象** 中学生・高校生以上  
**参加費** 無料

### 1. 講演 13:00～14:55

「最先端医療製品開発を支える新材料」

山形大学大学院理工学研究科 教授 田中賢

「細胞の呼吸を図って医療に貢献する」

山形大学大学院理工学研究科 教授 阿部宏之

「卵子の老化とは？」

山形大学医学部産婦人科 講師・病院教授 高橋俊文

### 2. 研究室見学 15:00～16:00

工学部バイオ化学工学専攻の研究室(阿部宏之・黒谷研究室、田中研究室)

**申込方法**：FAX(0238-26-3177)またはEメール

([biojimu@yz.yamagata-u.ac.jp](mailto:biojimu@yz.yamagata-u.ac.jp))にて、

セミナーおよび研究室見学それぞれの参加希望の有無、  
名前、所属、住所、電話番号、メールアドレスを送付

(お問い合わせ)

[山形大学工学部バイオ化学工学科事務室 高橋・東]

電話：0238-26-3180



山形大学工学部公開セミナー

# 次世代医療を担うバイオ化学

私たちは、工学分野の研究・開発によって生まれたさまざまな物に支えられ、安全、且つ健康で豊かな生活を送っています。しかし、残念なことに我が国では少子・高齢化が急速に進み、少子化対策に真剣に取り組む必要がでてきています。

今回は、山形大学での最新の医療製品開発のお話と基礎から応用までの生殖医療分野のお話を分かりやすくお話したいとおもいます。どなたでも参加できるセミナーになっておりますので是非足をお運びください。

日時 平成25年**1月26日(土)** 13:00~16:00 (受付開始 12:30~)

会場 山形大学工学部  
中示範B教室

対象 中学生・高校生以上

① 講演 13:00~14:55

13:00~13:05 開会の辞

山形大学 工学部 副学部長 高橋 辰宏 氏

13:10~13:40

最先端医療製品開発を支える新材料

山形大学 大学院理工学研究科 バイオ化学工学専攻 教授  
田中 賢 氏



13:45~14:15

細胞の呼吸を測って医療に貢献する

山形大学 大学院理工学研究科 バイオ化学工学専攻 教授  
阿部 宏之 氏



14:20~14:50

卵子の老化とは?

山形大学 医学部産婦人科 講師・病院教授  
高橋 俊文 氏



14:50~14:55 閉会の辞

山形大学 大学院理工学研究科 バイオ化学工学専攻 教授 阿部 宏之 氏

② 研究室見学 15:00~16:00

工学部バイオ化学工学専攻の研究室(阿部宏之・黒谷研究室、田中研究室)をご案内させていただきます。1研究室15~20分程度を予定しております。



主催 YU-COE(山形大学高度生殖テクノロジーイノベーション拠点) 山形大学工学部バイオ化学工学科

※このセミナーは、山形県置賜総合支庁「次世代産業技術に関する先端的研究の普及啓発事業」プロジェクトの支援を受けて開催いたします。

お問い合わせ先 TEL 0238-26-3180 FAX 0238-26-3177 E-mail biojimu@yz.yamagata-u.ac.jp

工学部バイオ化学工学科事務室 高橋・東(ひがし)まで

※この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

FAX : 0238-26-3177 担当 : 高橋・東(ひがし)

# 山形大学工学部公開セミナー ～次世代医療を担うバイオ化学～

日時 平成25年1月26日(土) 13:00~16:00  
(受付開始 12:30~)

参加費  
無料!

会場 山形大学工学部  
中示範B教室

対象 中学生・高校生以上

## 参加お申込み方法

### ●FAXで申し込む場合

**0238-26-3177**

※下記の参加申込書を送付して下さい。

### ●Eメールで申し込む場合

**biojimu@yz.yamagata-u.ac.jp**

※参加申し込み書の内容を送信  
タイトルに「公開セミナー申し込み」と  
お書き下さい。

### ★個人情報の取り扱い★

ご記入いただいた個人情報は、本セミナーに  
おける確認のために使用し、その他の目的の  
為に使用する事はございません。

## ACCESS



申込締切 : 平成25年1月24日(木)必着

参加申込書 (参加希望の方は下記に○をつけてご返信ください)

セミナー	参加希望します。	研究室案内	参加希望します。
連絡先等ご記入ください。			
名前			
所属			
住所			
電話番号			
メールアドレス			

お申込み・お問合わせ先\*工学部バイオ化学工学科事務室 高橋・東(ひがし)  
TEL:0238-26-3180 FAX:0238-26-3177 E-mail:biojimu@yz.yamagata-u.ac.jp

平成25年 1月22日  
山形大学

## 平成24年度 山形大学 造形芸術コース 卒業・修了制作展

地域教育文化学部 造形芸術コース及び大学院地域教育文化研究科 文化創造専攻の学生が卒業・修了制作展を開催いたします。

### 山形展

開催日時：2013年2月7日（木）～11日（月）  
10:00～17:00（最終日は15:00まで）  
会場：山形美術館 2階第3展示室  
（山形市大手町 1-63）**入場無料**  
修了研究発表会：2月10日（日）11:00～（2階休憩室）  
ギャラリートーク：2月10日（日）14:00～  
（2階第3展示室）



### サテライト展

（この展覧会は、愛媛大学との合同展覧会です。）  
開催日時：2013年3月1日（金）～6日（水）  
9:00～17:45（初日は15:00から/最終日は13:00まで）  
会場：キャンパス・イノベーションセンター **入場無料**  
（東京都港区芝浦 3-3-6 山形大学東京サテライト）

今回の制作展では、絵画、デザイン、工芸、彫刻など様々な領域から、個性豊かな作品が展示されます。私たちには、1人1人が積み上げてきたものと、卒展への思いがあります。それはとても1つの言葉にまとめることはできません。そこで今年度は「Weave」という1つの合言葉をもとに制作に取り組んできました。「Weave」には織り込む、作り上げる、編むなどの意味があります。1人1人の思いや作品を1本ずつの糸に見立て、「私たちが編みあげる・作り上げるもの」という意味を込めました。

それぞれの作品に込められた思いを感じ取っていただければ幸いです。

（お問い合わせ）  
[山形大学総務部広報室]  
電話：023-628-4005  
[学生広報担当 齋藤有里]  
E-mail：bibibi13en@yahoo.co.jp



# 山形大学

YAMAGATA UNIVERSITY

Exhibition Of Graduation Works 2013

地域教育文化学部文化創造学科造形芸術コース  
大学院地域教育文化研究科文化創造専攻造形芸術分野

## 卒業・修了制作展 2013

2013年2月7日(木)

~ 2月11日(月)

10:00~17:00(最終日 15:00まで)

山形美術館 2階第3展示室 **入場無料**

修了研究発表会 2月10日(日) 11:00 ~ (2階休憩室)

ギャラリートーク 2月10日(日) 14:00 ~ (2階第3展示室)

山形大学 × 愛媛大学  
合同東京展も開催!

### 第3回 卒業・修了合同美術展覧会

2013年3月1日(金) ~ 3月6日(水)

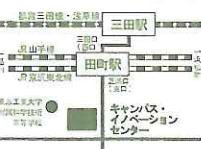
9:00 ~ 17:45(初日 15:00から / 最終日 13:00まで)

キャンパス・イノベーションセンター **入場無料**

〒108-0023 東京都港区芝浦 3-3-6

TEL/FAX: 03-5440-9071(山形大学東京サテライト)

JR 山手線・京浜東北線 田町駅下車 芝浦口より徒歩1分  
都営地下鉄三田線・浅草線 三田駅下車 徒歩5分



#### アクセス

〒990-0046 山形県山形市大手町 1-63

TEL: 023-622-3090 FAX: 023-622-3145

【徒歩】JR山形駅(東口)から徒歩15分

【バス】山形駅前から①「天童(荒谷経由)」行き・「山寺」行きで約5分、美術館前下車徒歩3分

②中心街「100円循環バス」(10分おき運行)で約10分、

霞城公園(教育会館)前下車徒歩4分

【車】山形自動車道山形蔵王ICから約15分

※山形美術館北側に無料駐車場あり、美術館前の山形市大手町駐車場は有料



平成25年1月22日  
山形大学

## < 東日本大震災被災地支援 >

### 石巻市立小学校等にノートパソコンを寄贈

山形大学生生活協同組合は、山形大学と協力し、石巻市教育委員会にノートパソコンを寄贈いたします。

山形大学生生活協同組合と山形大学では、石巻市の子供達が情報の勉強等に使っていただけるよう、パーソナルコンピューターを同市教育委員会に寄贈いたします。

寄贈させていただくのは、ノートパソコン30台とマウス30個で、来年度4月から石巻市雄勝地区等の小学校等で活用していただける予定です。

山形大学生生活協同組合の意向を受け、山形大学が現地教育委員会と調整を行って実現したものです。従いまして、情報機材はすべて山形大学生生活協同組合で準備いたしました。

なお、贈呈式は、下記の日程で行うことにしております。

#### 記

##### 「ノートパソコン贈呈式」

日時：平成25年1月29日（火）11時30分～12時00分  
場所：石巻市役所4階 教育長室（石巻市穀町14-1）  
出席：石巻市教育委員会教育長 境 直彦氏  
山形大学副学長・理事 安田 弘法  
山形大学生生活協同組合理事長 佐々木 実  
贈呈品：ノートパーソナルコンピューター及びマウス 各 30台  
ノートPC) FMVS54GDBW 22台・FMVS54GD1R 8台/富士通  
マウス) M-LS3URPN 30個/ELECOM

##### （お問合せ先）

- ・山形大学渉外部渉外課  
矢口、山川、大谷  
TEL：023-628-4016
- ・山形大学生生活協同組合  
安部、藤巻  
TEL：023-632-3533

# プレス通知資料（概要）

平成25年1月22日  
山形大学

## 1. 理学部の柴田晋平教授が代表を務めるNPO法人小さな天文学者の会が、荘内銀行ふるさと創造基金「地域貢献大賞」を受賞

このたび、理学部の柴田晋平教授が代表を務めるNPO法人小さな天文学者の会が、荘内銀行ふるさと創造基金「地域貢献大賞」を受賞することになりました。これは、理学部と共同ですすめている「やまがた天文台」と「星のソムリエ」の活動が評価されたもので、大学と地域が連携して地域の社会教育・学校教育に深く貢献しているモデル事業の例として、高く評価されたものと考えます。なお、賞の贈呈式及び活動報告会が以下のとおり開催されますので、お知らせします。

・荘内銀行ふるさと創造基金「地域貢献大賞」贈呈式及び受賞団体活動報告

日 時：平成25年1月23日(水) 13時30分～14時15分

場 所：山形グランドホテル

〔詳しくは、別添の資料をご覧ください〕

## 2. 南東北3大学連携シンポジウム「安全と信頼で支えられる地域社会の構築を目指して」開催

本シンポジウムは、市民、企業、行政、そして大学をはじめとする高等教育機関がともに集い、復興への取り組みや研究成果、将来をふまえて、地域社会の形成に向けての率直な思いを交換して、今後南東北三県及びその地域にある大学等の果たすべき役割と連携構築について考えます。

日 時：平成25年2月2日(土) 13:30～16:00(受付開始 13:00～)

会 場：福島県文化センター 小ホール(福島市春日町5-54)

対 象 一般県民(参加無料)

〔詳しくは、別添の資料をご覧ください〕

## 3. これまでの学長定例会見でお知らせをしたもので開催がせまっているイベント

### 山形大学入試直前相談会開催

受験生とその保護者の方、高校の先生、入試関係者の方々の入試に関する疑問を解決します。山形大学全学部の入試担当教職員が参加いたします。

【仙台会場】 日 時：平成25年1月26日(土) 13:30～16:00

場 所：仙台ガーデンパレス(仙台市)

【山形会場】 日 時：平成25年1月27日(日) 13:00～15:00

場 所：山形大学理学部1階11～14番講義室(山形市)

〔詳しくは、別添の資料をご覧ください〕

# 地域に根ざした市民活動を支援するセミナー

～ 成功事例に学ぶ、助成金活用と申請方法 ～

日時	平成25年1月23日(水) 13時30分 ～ 16時00分	<b>参加料 無料!</b>
会場	山形市 山形グランドホテル【定員80名】※定員になり次第締め切り	
対象者	NPO・学校・企業・地域づくり団体・ボランティア団体他、興味のある方	

## 第1部 荘内銀行ふるさと創造基金「地域貢献大賞」 13時30分～14時15分

- 1) 荘内銀行ふるさと創造基金「地域貢献大賞」贈呈式 2団体
- 2) 受賞団体活動報告
  - ① 鶴岡ジュニアオーケストラ(鶴岡市)
  - ② NPO法人小さな天文学者の会(山形市)



●オーケストラ活動を通じた児童の健全育成と地域の活性化



星空案内人資格認定制度運営委員会



●星空案内人資格認定制度の全国への普及に取り組む

## 第2部 助成金活用と申請方法 14時30分～16時00分

- 1) 企画書の書き方と助成金申請のポイントを学ぶ
  - ①「やまがた社会貢献基金」について 講師 山形県県民活動プロスポーツ支援室
  - ②「公益信託 荘内銀行ふるさと創造基金」について 講師 荘内銀行ふるさと振興室
- 2) ワークショップ  
実際の申請書類をつかって、書いてみよう!!
- 3) 個別相談会  
参加者からの疑問質問に、担当者が対応致します!

なるほど・・・  
わかったぞ☆



締め切りは、1月15日（火）です!!



平成25年1月23日

「地域に根ざした市民活動を支援するセミナー」申込書



FAX 023-647-0676



◆申し込み方法と完了のお知らせ◆

- FAX/メールでお申し込みの方は、申し込み完了のFAX/メールをお送りします。
- お電話の方は、お名前と連絡先を事務局までお伝え下さい。
- ご提供いただくお名前、ご住所などの個人情報、本事業のご案内のみに利用し、厳重に管理いたします。

参 加 者 情 報	参加団体名	氏名	複数名で参加の場合 (総数)
	住所 〒		
	TEL	FAX	E-mail
	●助成金申請などについての質問がありましたらお書きください。		
人			



会場 山形グランドホテル

〒990-0043

山形県山形市本町一丁目7-42

TEL 023-641-2611

駐車場 有り（無料）



第1部

主催 公益信託庄内銀行ふるさと創造基金

共催 (特活)山形創造NPO支援ネットワーク

第2部

主催 (特活)山形創造NPO支援ネットワーク

共催 庄内銀行ふるさと振興室

協力 山形県

※事務局 庄内銀行ふるさと振興室

(特活)山形創造NPO支援ネットワーク

▼お申し込み・お問い合わせ ▼  
(特活)山形創造NPO支援ネットワーク

住所 〒990-0832 山形市城西町1-7-19

電話 023-647-0675 FAX 023-647-0676

E-mail sozokatsudos@amail.plala.or.jp

担当 鈴木まで

お気軽にお問合せ下さい!





参加無料

## 南東北三大学連携シンポジウム

# 「安全と信頼で支えられる地域社会の構築を目指して」

### はじめに

福島大学、宮城教育大学及び山形大学の南東北三大学は、地域再生を目指した連携事業を実施しています。東北地域においては、東日本大震災および津波により大きな被害を受け、さらに福島県では東京電力福島第一原子力発電所の事故による大きな被害が重なり、地域の人々をはじめ多くの国民が食の安全・安心などを含めさまざまな懸念と心配を抱えています。

これまでの復興の状況を考えると、地域の絆に支えられていることを認識すると同時に、風評被害の原因でもある地域の情報発信の少なさや戦略的な地域活性化の仕掛けの必要性など解決されるべき種々の課題があることが明らかになってきています。

このシンポジウムでは、地域を構成する主体となる市民、企業、行政、そして大学をはじめとする高等教育機関がともに集い、2011年3月1日以降に実施してきた復興への取り組みや研究成果、将来をふまえて、地域社会の形成に向けての率直な思いを交換して、今後南東北三県及びその地域にある大学等の果たすべき役割と連携構築について考えます。

### 日時・会場

平成25年2月2日(土) 13:30~16:00

福島県文化センター小ホール【定員300名】

### プログラム

13:30-13:40 挨拶 福島大学長 入野 修

13:40-14:30 基調講演

『原発災害と地域再生』 鈴木 浩 氏 (福島大学名誉教授)

14:40-16:00 パネルディスカッション「今こそ考える、地域社会の構築と大学の役割」

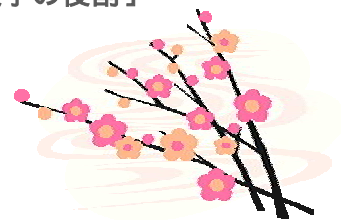
コーディネーター：小沢 喜仁 (福島大学副学長)

コメンテーター：鈴木 浩 氏 (福島大学名誉教授)

パネリスト：下平 裕之 (山形大学人文学部教授)

吉田 利弘 (宮城教育大学教育復興支援  
センター特任教授)

企業代表 (予定)、学生代表 (予定)



### 会場案内

福島県文化センター 〒960-8116 福島市春日町5-54

会場の駐車場には限りがございますので、なるべく公共交通機関のご利用をお願いします。バスは福島駅東口バスのり場(9番)より市内循環バス(1・2コース)乗車、『文化センター入口』停留所下車、徒歩5分です。(運賃100円、本数は1時間に6~10本、乗車時間15分程度)

### 申込方法

E-mailの場合は、参加者の氏名、所属、連絡先(E-mail、電話番号)を、FAXの場合は裏面の申込書に記載いただき下記宛お申込みください。

### 申込締切

定員になり次第締め切らせていただきます。

### お申込・お問合せ先

福島大学 地域連携課 (担当 安齋) 〒960-1296 福島市金谷川一番地

電話 024-548-5211 FAX 024-548-5244 E-mail syogai@adb.fukushima-u.ac.jp



FAX : 024-548-5244 福島大学 地域連携課 行

## 「南東北三大学連携シンポジウム」参加申込書

必要事項を明記の上、FAX・郵送またはE-mailにてお申込ください。

申込締切日：定員になり次第締め切らせていただきます。(定員300名)

定員満了後にご連絡いただいた方にのみ、参加不可のご連絡をさせていただきますので、連絡がない場合はご参加いただけます。

所属	
氏名	
連絡先	電話
	E-mail
所属	
氏名	
連絡先	電話
	E-mail

FAXでお申込される方で、申込者が多数の場合は、お手数ですが本申込書をコピーしてご利用ください。この申込書にご記入いただいた情報は、今回の講座を受講するために必要な事務連絡等に使用すると共に、参加者名簿の作成にのみ使用させていただきます。

### 【お申込・お問合せ先】

福島大学 地域連携課 (担当：安齋)

〒960-1296 福島市金谷川一番地

電話 024-548-5211 FAX 024-548-5244

E-mail syogai@adb.fukushima-u.ac.jp

# 山形大学

## 平成25年度 入試直前相談会

仙台会場(1/26日)では「宮城教育大学」「福島大学」の相談ブースも設置します。

**大学概要等説明**  
 仙台会場 / 13:30~13:55  
 山形会場 / 13:00~13:25

**各学部個別相談コーナー**

**在学生相談コーナー**

**資料配付コーナー**  
 願書配付!

入試に関するギモン解決のために、ぜひ、ご参加ください。

受験生とその保護者の方から、高校教員、入試関係者の方々まで

**仙台会場**  
 ◎日時: 平成25年 **1/26日** 入退出自由  
 13:30~16:00  
 ◎会場: 仙台ガーデンパレス(2階 鳳凰)  
 〒983-0852 仙台市宮城野区福岡4-1-5



- <自家用車でお越しの方>  
 ※有料地下駐車場をご利用いただけますが、数に限りがございますので、予めご了承ください。
- <仙台駅より徒歩でお越しの方>  
 □JR線: 仙台駅東口より徒歩約3分

**希望、一歩前進。**

**山形会場**  
 ◎日時: 平成25年 **1/27日** 入退出自由  
 13:00~15:00  
 ◎会場: 山形大学理学部(小白川キャンパス)1F [11~14番講義室]  
 〒990-8560 山形市小白川町1-4-12



- <自家用車でお越しの方>  
 ※駐車場につきましては、山形大学小白川キャンパス駐車場(正門を入って右側)をご利用ください。  
 ※駐車スペースに限りがございますので、予めご了承ください。  
 ※駐車場内における事故等につきましては、責任を負いかねますので、予めご了承ください。
- <山形駅-山形大学小白川キャンパス間の無料シャトルバスを運行いたします。>  
 ※山形駅東口バスロータリーより発着(係員がご案内いたします。)  
 ※右記時刻表を参照ください。

◎シャトルバス時刻表

山形駅発	山形大学発
12:15	—
12:45	—
13:15	13:30
13:45	14:00
14:15	14:30
—	15:15

事前申込は不要です。直接ご来場ください。  
 全学部の入試担当教職員が参加いたします。

